



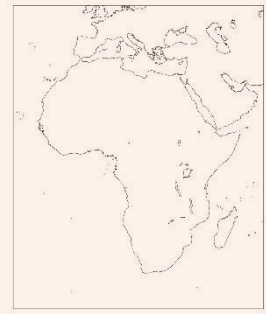
アイパル・JICA 高校生カレッジ～2024 夏～



感じよう、ふれあおう、アフリカ

～JICA 研修員と英語でコミュニケーション～

実施報告



<目的・ねらい>

県内の高校生を対象とする国際理解プログラムで、世界の現状や異文化について理解を深め、自分自身の将来について考えられるような機会を提供する。アイパル・JICA 共催事業。

●日時: 8/7(水) 13:00～16:00

●場所: アイパル香川 中2階交流フロアー

□第1部 アフリカを感じる

～JICA 海外協力隊の体験談を聞こう～

□第2部 アフリカにふれる

～アフリカからの JICA 研修員と交流しよう～

第1部



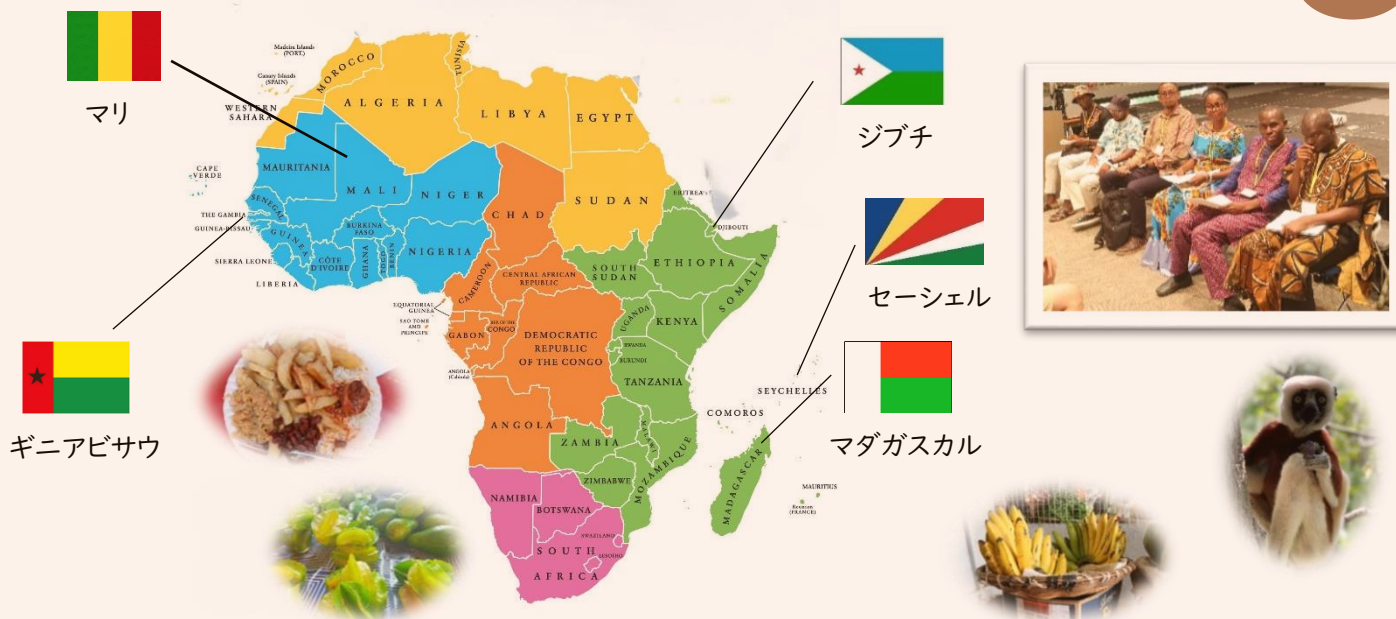
県内の各高校から 20 名の生徒が参加。講座開始前には、事前課題であった「英語で名刺をつくらう」で用意していた名刺を生徒同士で交換し、「初めまして」の他校生と交流しながら過ごしました。

講座の始まりはゲームでアイスブレイク。「今の気持ちはどれ?」「行ってみたいところは?」などの質問に当てはまる回答を選び、移動してもらう「部屋の四隅」で、緊張をほぐしました。最初は硬い表情だった生徒にも徐々に笑顔が増え、緊張がほぐれていくのが分かりました。

続いて、アフリカ・マダガスカル島で生活改善活動の普及などを行っていた元 JICA 海外協力隊「道官丈晴」さんの体験談を聞きました。現地の様子やそこに暮らす人々の価値観など、道官さんならではの視点で生き生きと語られ、生徒たちは熱心に耳を傾けていました。また現地語であるマダガスカル語のミニレッスンでは、簡単な自己紹介を書いたり読んだりして理解を深めました。

生徒からは「海外協力隊の活動が帰国後仕事でどう活かされてか」といった質問が出るなど、国際協力に対する高校生の関心の高さが垣間見える時間となりました。





ギニアビサウ、ジブチ、マダガスカル、セーシェル、マリ の 5 カ国より 6 人の研修員を迎え、第 2 部がスタート。自己紹介や国の場所当てクイズが英語で行われ、学生たちはメモを取ってヒントを探りながら挑戦していました。英語で指示を出すグループ対抗の「福笑い」は大変盛り上がり、出来上がった作品に思わず顔を見合わせて笑い出すなど微笑ましい様子が見られました。

班ごとに分かれ「デザート」や「ルイボスティー」を体験しながらのフリートークでは、研修員から説明を受け恐る恐るデザートを口に運んだり、英語の名刺を研修員に渡して質問し合うなど、お互いの国の文化や習慣について積極的に知ろうとする様子で、予想以上に話が弾み、席替えも行いながらより多くの国の研修員と触れ合う時間となりました。

最後は JICA 四国香川デスクの「由地一樹」さんより、改めて JICA 海外協力隊についての説明が行われて全内容が終了。

「今日学んだことを将来に活かして」「私たちの国に興味を持ってくれて嬉しい」「楽しく交流できた」など研修員の皆さんから声をかけられてお別れとなりました。



<高校生の感想>

- ・英語が流ちょうには話せないが、何となく聞き取れたり話せたりして楽しかった。
- ・同じ興味を持つ高校生と交流できて良かった。
- ・日本の真似が幸せとは限らないと知った。
- ・国際協力についてもっと知りたくなった。
- ・アフリカの抱える問題や歴史、伝統などをもっと知りたいと思った。
- ・今回の交流をこれからのコミュニケーションに活かしたい。

